

# 01

BOOK-GUIDE

## 出雲市全域の本



平成17年(2005)3月に2市4町(出雲市・  
ひらた さだ たき こりょう たいしゃ  
平田市・佐田町・多伎町・湖陵町・大社町)  
が合併して誕生した出雲市は、平成23年  
(2011)10月には斐川町を加え、山陰で3番  
目の人口を誇る都市となりました。

中心部には、斐伊川と神戸川の二大河川により形成された出雲平野、北部には、国引き神話で知られる島根半島、南部は、中国山地で構成されています。また、西には日本海、東には宍道湖を有し、海・山・平野・川・湖と多彩な自然環境からなっています。

本市は、特色ある地域の総合力を高め、都市としての自立的な発展・成長を図り、西部日本海域の新しい中心都市を標榜しながら、自立、交流、環境をテーマに住民が主役のまちづくりを進めています。また、国内外との広域的な連携や交流を活発に行い、人を結び、地域を結ぶ、ひらかれた活気あふれる「世界を結ぶご縁都市」を目指しています。

01

# 出雲市全域の本



BOOK GUIDE

●いぐものぐにふどき

## 出雲国風土記

歴

『出雲国風土記』は、和銅6年（713）に出された元明天皇の風土記撰進の詔に基づき、天平5年（733）につくられた出雲国の古代地誌です。風土記は国ごとに編さんされましたが、現存する、出雲・常陸・播磨・豊後・肥前の5カ国の風土記のうち、出雲だけが原本ですので、その史料的価値は極めて高いものです。

また他の風土記が、国司から太政官への解文の形をとっているのに対し、出雲は国造が編集しているほか、『古事記』の神話にはみられない、雄大なスケールの国引き神話などを盛り込んだ、独自色の強いものになっています。

全体の構成は、国名の由来など総括的な記述から始まり、次に9郡の郡別の郷・駅家・寺院・神社などを列挙するほか、山や川などの名前やそこでとれる産物などを記載し、各郡の最後に、郡司の名を記しています。

『出雲国風土記』については、江戸時代から研究が進められ、数多くの優れた注釈本や研究書などが発刊されています。古代出雲を知るうえでの貴重な地誌であるのみならず、郷土の大切な歴史文化遺産です。

### <原文・注釈書>

#### 風土記

著者名 秋本吉郎 校注  
発行者 岩波書店  
出版年 昭和33年（1958）  
日本古典文学大系2

#### 出雲国風土記

著者名 加藤義成 校注  
発行者 報光社  
出版年 昭和63年（1988）

#### 出雲国風土記諸本集

著者名 秋本義範 編  
発行者 勉誠社  
出版年 昭和59年（1984）

#### 出雲国風土記注釈

著者名 松本直樹 注釈  
発行者 新典社  
出版年 平成19年（2007）

#### 出雲国風土記

著者名 沖永卓也ほか 編著  
発行者 山川出版社  
出版年 平成17年（2005）

#### 出雲風土記

著者名 佐野正己 解説  
発行者 白帝社  
出版年 昭和43年（1968）  
六所神社本

### <研究書>

#### 出雲国風土記論攷

著者名 水野祐  
発行者 早稲田大学古代史研究会  
出版年 昭和40年（1965）

#### 風土記の考古学③

著者名 山本清 編  
発行者 同成社  
出版年 平成7年（1995）  
『出雲国風土記』の巻

#### 出雲国風土記の研究

出版年 昭和28年（1953）

### <児童書>

#### こども出雲国風土記

著者名 川島英美子  
発行者 山陰中央新報社  
出版年 平成6年（1994）

●しゅううていいすものくにふどきさんきゅう

## 修訂出雲国風土記参究

著者名 加藤義成 発行者 松江今井書店

出版年 昭和56年(1981)

歴

本書は、奈良時代の地誌である『出雲国風土記』が、広く学生や一般愛好者にも味読してもらえるように、できるだけ平易詳細な通釈と解釈考察を施したものです。

本文は細川家本『出雲国風土記』を底本とし、『出雲風土記抄』の本文を副本として諸本を照らし合せ、これを仮名まじり文に書き下したもので、文学、史学、民俗的立場など、さまざまな視点から究明しています。

また著者は、多年にわたり、『出雲国風土記』の研究に邁進し、昭和32年に『出雲国風土記参究』を著し、さらに改訂を重ねて本書を出版する運びになったものです。生涯のライフワークとして結実した本書は、まさに学史に残る名著であり、今後の風土記研究に欠かすことのできない一冊です。

●いすものくにふどきちゅうろん

## 「出雲国風土記」註論

著者名 関和彦

発行者 明石書店

出版年 平成18年(2006)

歴

島根県古代文化センターの客員研究員として、古代文化センターの紀要『古代文化研究』に「秋鹿郡」から逐次連載して掲載したものを、新訂増補して集大成し、一冊にまとめたものです。

著者は、『出雲国風土記』の現地調査が可能な最後の段階との認識から、出雲をぐまなく歩き、地元の古老等の話に耳を傾けるなど、徹底的に地域に密着した研究姿勢を貫いています。

本書は、これまで永く『出雲国風土記』研究のバイブルとされてきた加藤義成の『出雲国風土記参究』から一步踏み込んだ注釈書として高く評価できるとともに、今後の『出雲国風土記』研究の指針となる大著といえます。

●こじき

# 古事記

歴

『古事記』は、奈良時代の和銅5年(712)に成立した日本最古の書物です。天武天皇の命により編さんが始まり、諸家に伝わる『帝記』や『旧辞』などから正しい伝えを選び、稗田阿礼がおぼえていた言葉を、元明天皇の時代に太安万侶が記録したとされています。正史としての性格の強い『日本書紀』に対して、『古事記』は古代の天皇を中心とした国家の正統性を記載した書物といえます。『古事記』は、上・中・下巻の3巻から成り、このうち神々が活躍する上巻には、須佐之男命の八俣大蛇退治や大国主神の国作り・国譲りなど、出雲に関わりが深い物語が多く描かれ、『古事記』に記された神話のうち、三分の一は出雲神話といわれています。

これまで、江戸時代の国学者、本居宣長の『古事記伝』をはじめ、数多くの研究がなされていますが、日本人に最も関心がもたれている、いわば日本の原点ともいえる書物です。

## <原文・注釈書>

### 古事記 祝詞

著者名 倉野憲司 校注  
発行者 岩波書店  
出版年 昭和33年(1958)  
日本古典文学大系1

### 古事記

著者名 山口佳紀・神野志隆光 校訂・訳  
発行者 小学館  
出版年 平成19年(2007)  
日本の古典を読む1

### 古事記注釈

著者名 西郷信綱  
発行者 平凡社  
出版年 昭和51年(1976)  
第2巻

### 本居宣長全集

著者名 本居宣長  
発行者 筑摩書房  
出版年 昭和43年(1968)  
古事記伝(第9~12巻)

## <研究書・一般書>

### 神々の流竄

著者名 梅原猛  
発行者 集英社  
出版年 昭和56年(1981)

### 出雲神話の誕生

著者名 鳥越憲三郎  
発行者 講談社  
出版年 平成18年(2006)  
講談社学術文庫

### 古事記の新研究

著者名 上田正昭 編  
発行者 学生社  
出版年 平成18年(2006)

### 古事記を旅する

著者名 三浦佑之  
発行者 文芸春秋  
出版年 平成19年(2007)

### 古事記の原風景

著者名 伊藤ユキ子  
発行者 学習研究社  
出版年 平成16年(2004)

### 古事記がわかる事典

著者名 青木周平  
発行者 日本実業出版社  
出版年 平成17年(2005)

### 神々と歩く出雲神話

著者名 藤岡大拙  
発行者 NPO法人出雲学研究所  
出版年 平成22年(2010)

### <児童書>

### マンガ古事記

著者名 阿部高明 画  
発行者 河出書房新社  
出版年 昭和63年(1988)

●かいきつだん

## 懐橋談前後篇

著者名 黒沢石斎

発行者 松陽新報社

出版年 大正3年（1914）

歴

一名を出雲十郡記といい、『出雲国風土記』以来、初めての地誌として貴重な書物で、松江藩祖松平直政につかえた儒学者の黒沢石斎が、出雲国中を巡って見聞した記録です。

原著は、上巻（1653年）と下巻（1661年）から成り、本書は大正3年に松陽新報社から出雲文庫第2編として、活字で印刷され出版されたものです。

内容は、意宇郡（付・能義郡）から順次西に向かい、島根郡、楯縫郡、出雲郡、神門郡を経て南へ折れ、飯石郡、仁多郡、大原郡を歩き、『出雲国風土記』にならって、土地のいわれや神社仏閣などの諸々の事象について記していますので、江戸初期の地域の実状を知るうえで大いに参考になる一冊といえます。

●うんようし

## 雲陽誌

著者名 黒沢長尚 発行者 島根県内務部 2冊

出版年 明治43年（1910） 原著は享保2年（1717）

歴

本書の原本はなく、写本25冊が残されていますが、島根県内務部刊行の活字本は、A5、上下2巻から成っています。

『雲陽誌』は、松江藩主松平宣維が儒学者の黒沢長尚に命じて編さんした江戸時代中期の出雲の地誌として、郷土史研究には欠かせない貴重な資料です。島根、神門、楯縫、意宇、能義、大原、仁多、秋鹿、飯石、出雲の10郡545町村から成り、島根郡の松江府城から順次、神社、仏閣、古跡、名所、古戦場、古城跡などの由来や伝説が詳しく記されています。近世の出雲地方史を研究するうえで貴重な資料であるとともに、『出雲国風土記』研究にも参考になる文献といえます。

●しんしゅうしまねけんし

## 新修島根県史

発行者 島根県

出版年 昭和40年（1965）～昭和43年（1968）

歴

大正11年～昭和5年にかけて島根県が発刊した県史の40年ぶりの新修版です。昭和5年に完成した旧県史は近世末までを対象にしていたため、これを改訂補足し、新修島根県史では明治以降の歴史まで取り入れています。

昭和36年以来、約7年の歳月を経て完結した県史は、通史篇3巻、史料篇6巻、年表篇1巻の10巻で構成されていますが、さらに多面的に県史を補完するために、事業の経緯、執筆者の感想、補完資料等を集めて、「編纂余録」として編集しています。

通史篇は、1（考古・古代・中世・近世）、2（近代）、3（現代）、史料篇は、1（古代・中世）、2（近世上）、3（近世下）、4（近代上）、5（近代中）、6（近代下）、年表は古代から昭和20年までを対象としています。

● ずせつしまねけんのれきし

## 図説島根県の歴史

著者名 内藤正中 編

発行者 河出書房新社

出版年 平成9年(1997)

歴

図説日本の歴史(全47巻)シリーズのうちの一冊(第32巻)として発刊されました。

本書は、島根を知り尽くした最適な執筆陣による最新の成果を取り入れた概説書で、端的かつ明瞭に島根の歴史を描き出しています。また、本文中に挿入された「隠岐島の黒曜石」などの多くのコラムは、本文を補完する興味ある話題を提供しています。

写真や図版も多く、読みやすくわかりやすい内容で、島根県の歴史の概要を知るには格好の一冊です。

● しまねけんれきしだいねんぴょう

## 島根県歴史大年表

発行者 郷土出版社

出版年 平成13年(2001)

歴

原始から現代の平成12年までの島根県の動きを、図版、写真を織り交ぜながら、わかりやすく編集した年表です。

古代から戦前までは、昭和42年に発刊された『新修島根県史 年表編』を基礎資料としていますが、新たに全国の動きを入れ、島根の動きと対比してより理解できるように、編集に工夫が加えられています。また考古年表については、最新の調査の成果をもとに新たに書き下ろしているほか、巻末には、「島根県内の駅開業日一覧」、「歴代天皇一覧」などの資料を付しています。

● しまねけんだいひやっかじてん

## 島根県大百科事典 上・下巻

著者名 島根県大百科事典編集委員会

山陰中央新報社開発局 編

発行者 山陰中央新報社 出版年 昭和57年(1982)

事

山陰中央新報社が、創刊100周年を迎えた記念として、島根県のすべてを記録にとどめようと企画・発刊した百科事典です。

この、いわば現代の「島根の風土記」の企画にあたり、約500人の編集委員、執筆者が参画し、約12,000項目を精選、解説した上・下2巻の事典です。

また、巻頭にはカラー写真、上巻には「懐かしの松江」の写真特集を組むほか、付表として、上巻には、市町村名の変遷、島根県市町村図、島根県考古年表など8項目、下巻には、島根県下の国・県指定文化財、島根県統計要覧、神社一覧など16項目について、一覧表等を付表としてつけています。

● しまねけんれきしじんぶつじてん

## 島根県歴史人物事典

発行者 山陰中央新報社

出版年 平成9年(1997)

人

事

山陰中央新報社創刊115周年記念事業として発刊された事典です。

本書には、古代から現代までの、島根県在住、島根県出身、あるいは島根県にゆかりのある2,700人を厳選して取り上げ、五十音順に並べられています。また、人物紹介の末尾に参

考文献欄がありますので、詳しく知りたいときには役に立ちます。

さらに、本文編とは別に、資料編として、古代から中世の国司、守護、中世の有力豪族、大名家系図、石見銀山の奉行・代官、国会議員、県知事、明治22年の市町村制施行以後の市町村長などの名簿が登載されています。とりわけ、明治22年以後の市町村長の名簿は、はじめてまとめられたもので、参考になる資料といえます。

●しまねけんのちめい

## 島根県の地名

著者名 平凡社地方資料センター 編  
発行者 平凡社 出版年 平成7年(1995)

歴

『大日本地名辞書』刊行後70年を経過して出版された、地名に関する事典です。

歴史的意味を持つ地名が失われつつあるなかで、この土地に刻まれた歴史を記録することは大きな意義があることから、綿密な準備のもとで在地の研究者を中心として各都道府県別に出版された日本歴史地名大系(全50冊)のうちの島根県版です。

本書は、県内を出雲・石見・隠岐の三国に大別したのち、それぞれの各郡・市・町・村ごとに記載され、歴史地名のみならず、主要な山や川、湖、遺跡なども掲載されています。

なお巻末には、文献解題・用語解説・行政区画変遷・石高一覧を付しているほか、詳細な索引が準備されていますので、地名検索には便利な一冊です。

●しまねのかみがみ

## 島根の神々

発行者 島根県神社庁  
出版年 昭和62年(1987)

哲

島根県神社庁創立40周年を記念し、『神国島根』の姉妹編として発刊された刊行物です。

本書では、『神国島根』で紹介した1,160社に祭られている687の神々を、五十音順に配列し、簡潔に解説しています。なお本文では、「島根の神社ご祭神概説」と「隠岐國に祀られた神々」の小文の後に、個々の神々を主祭神、配祀神、境内・外社祭神解説し、付編として「県内神社祭神一覧表」をつけ、主祭神、配祀神、境内・外社祭神ごと、また郡・市ごとの祭神分布が数字でわかるようになっています。

●しまねけんこうひでんせつしゅう

## 島根県口碑伝説集

著者名 正井儀之丞 編  
発行者 島根県教育会 出版年 昭和2年(1927)

社

島根県は神話や伝説の宝庫ですが、時代の推移により忘れ去られるおそれから、島根県教育会が県内の小学校に依頼して収集し、400余話を一冊の本としてまとめたものです。

本書は、口碑・伝説のほか、面白いものや捨てがたい話などを幅広く収録し、郡・市別に例挙してあり、口碑・伝説などを広く集成している点は高く評価できます。なお、簸川郡で72話、飯石郡からは18話が採録されています。

また本書の復刻本が、昭和54年に歴史図書社から再刊されています。

●さんいんのびじゅつかたち

## 山陰の美術家たち

著者名 山本晴男 発行者 リード盟通  
出版年 平成12年(2000)

人芸

本書は、山陰地方（島根県・鳥取県）の物故者を含む日本画家、洋画家、アニメ作家について書かれた刊行物です。

著者は、1997年から足かけ4年にわたり、53人の美術家と物故した画家の遺族、子弟、研究者65人に会って取材し、地域的なバランスも考慮しながら、取り上げる美術家を選んでいます。かつて山陰放送の報道関係の仕事に携わっていたこともあり、物語風に人物を描いているので、わかりやすい文章で綴られています。

掲載された美術家のうち、出雲市（合併後）の関係者は、日本画家の小豆澤禮ら6人です。

●しまねけんがじんでん

## 島根県画人伝

著者名 桑原羊次郎 発行者 島根県美術協会  
出版年 昭和10年(1935)

人芸

島根県出身の画家のうち、昭和10年現在の現存者を除いた264名に及ぶ画家の伝記です。

本書には、口絵写真を28枚掲載しているほか、画人の配列を称呼によって行っています。画家については、画蹟あるものは、その専門家であるかどうかを問わず記し、画人の解説を行った末尾には没年と享年を明示しています。

島根県の画家をはじめて網羅し集成した刊行物として、学史に残る不朽の名著といえます。

●しまねけんのきんだいかいさん

## 島根県の近代化遺産

著者名 島根県教育府文化財課  
発行者 島根県教育委員会  
出版年 平成14年(2002)

技

本書は、平成12・13年度に実施した島根県近代化遺産総合調査の結果をまとめたものです。

日本の近代化に貢献した県内の産業・交通・土木構築物109件を、個別に紹介とともに、「島根県の近代化」、「島根県の近代産業」、「島根県の近代建築」、「島根県の近代土木」について、その概要を論じています。

これまであまり触れられることのなかった、島根県の近代の礎を構築した多くの遺産にスポットをあてたことは高く評価でき、こうした地道な基礎調査は、今後の文化財保存への道を切り拓くうえで大きな業績といえます。

なお、巻末には、「島根県の近代化遺産一覧表」が掲載され、776件の一次調査でリストアップされた近代化遺産が紹介されていますので、今後大いに参考になります。

●こだいのいづもじてん

## 古代の出雲事典

著者名 潤音能之  
発行者 新人物往来社 出版年 平成13年（2001）

歴

本書は、『出雲国風土記』の研究者で、かつ古代史研究者でもある著者が、古代出雲にかかわるこれまでの知見を結集してまとめた著作です。

「古代出雲の基礎知識」と「出雲国風土記を歩く」の二部で構成され、巻末には古代出雲地域の歴史年表、島根県の古代出雲関係資料館・博物館が掲載されています。

古代出雲にかかわる刊行物が多い中で、全体を要領よくまとめたものはほとんどなく、学会の最新成果も盛り込まれた本書は、まさに古代出雲を知るために絶好の一冊です。

●けっていばんいづもうなんふるさとだいひやっか

## 決定版出雲・雲南ふるさと大百科

発行者 郷土出版社  
出版年 平成20年（2008）

事

本書は、出雲西部と雲南の自然や歴史の営みを、自然編、歴史・文化財編、交通・産業編、民俗・暮らし編、文化編に区分して、わかりやすく簡潔に記されています。

また、最新の学術成果をもとに、写真や図版も多用しながら、大きな活字で読みやすい誌面になっており、さらには本文中に囲み記事として、「クローズアップ」と「写真で見る」を要所に配するなどの配慮も見られ、出雲市周辺や雲南についてのアウトラインを知るには格好の一冊といえます。

さらに資料編には、旧市町村別概況と新市町村別指定文化財一覧を掲載し、読者の便宜を図っています。

●いずもへいやとそのしゅうへん

## 出雲平野とその周辺

著者名 石塚尊俊  
発行者 ワン・ライン 出版年 平成16年（2004）

歴

本書は、出雲平野とその周辺をひとつの地域的単位としてとらえ、この地域がどのようにして形成され、どのように移り変わって今日に至ったのかを綴った地域史です。

かつて『大津町誌』を著した著者が、さらに大局的に地域を的確にとらえ、出雲平野とその周辺の地域的特性を浮かび上がらせた本書は、今後の地域史研究の手法としても学ぶべきものがあります。

また、多数による分担執筆ではなく、一個人による一貫した考えのもとに執筆されていますので、『出雲平野とその周辺』の副題となっている「生成・発展・変貌」が、落差のないスムーズな歴史の流れになっていることがうかがわれます。

●いずもへいやのこふん

## 出雲平野の古墳

著者名 西尾克己 大国晴雄  
発行者 出雲市教育委員会 出版年 平成3年（1991）

歴

古代出雲の一大中心地である出雲平野には、数多くの古墳が築造されています。

本書では、先ず古墳時代の出雲について概観したのち、後半では探訪編として、今市大念寺古墳をはじめとする主な古墳を掲載しています。新書判ですので、携帯するには格好

の冊子ですし、地図や写真も多く、重宝する一冊といえます。

なお本書は、出雲市民文庫第9巻として発刊されたものです。

●いづもかぐら

## 出雲神楽

著者名 石塚尊俊

発行者 出雲市教育委員会

出版年 平成13年(2001)

社

出雲市内の神楽のみならず、出雲神楽の概説書としての体裁もとった一冊です。

本書は、神楽という言葉からはじめ、八乙女神楽などの出雲神楽の成立について語ったのち、出雲市内の神樂について、神楽組、神楽の要件、各段の舞様、詞章を解説しています。



神楽研究の全国的な権威者である著者ならではの、多角的な視点からの詳しい研究成果をわかり易く説いた本書は、出雲神楽を知るには格好の冊子といえます。

なお本書は、出雲市民文庫第17巻として発刊されたものです。

●いづもほうげんとそのしゅうへん

## 出雲方言とその周辺

著者名 広戸惇 発行者 出雲市教育委員会

出版年 平成2年(1990)

言

方言の専門家である著者が、出雲地方を中心に、島根県はもとより、中国地方、ときには全国の言語を参考にしながら、わかりやすく書いた一冊です。

本書は、昭和35年から10年を要して発刊された『中国地方五県言語地図』をベースに、『方言語彙の研究』を参照しながら一般向きの読み本として書かれ、「方言の発生」、「小鳥の方言」、「魚・昆虫・小動物の方言」、「植物の方言」、「出雲を中心とする言葉」の5章で構成されています。なお本書は、出雲市民文庫第7巻として発刊されたものです。

●ひいかわし

## 斐伊川誌

発行者 建設省中国地方建設局出雲工事事務所

出版年 平成7年(1995)

技

斐伊川放水路が起工式を迎える前に記念して発刊された、斐伊川についての総合的な河川誌です。

これまでにも、『斐伊川改修40年史』(昭和39年刊)などが発刊されていますが、本書は性格上、斐伊川の改修、治水、河川管理などの土木工学的な視点からのアプローチに重点をおいて編集されていますので、専門かつ実務的な要素が強い一冊といえます。

また、斐伊川・神戸川治水計画の実現に向け、大きく前進した段階での斐伊川を知るうえでは、基本図書として大いに参考になります。

●かんどがわし

## 神戸川史

著者名 神戸川史編纂委員会 編

発行者 神戸川史作成協議会 出版年 平成22年(2010)

技  
産

本書は、斐伊川・神戸川治水対策事業の放水路工事の完成を目前に控え、神戸川の歴史や文化を後世に伝えるために発刊された河川史です。

また、官民協働により作成された本書は、学校教育・社会教育の場での活用を目指し、カラー写真や図表を多用した理解しやすい誌面になっていますが、内容的には、最新の学術的成果を盛り込んだ一冊になっています。さらに、付属資料として、これまでに発刊された志津見ダムパンフレットなどの関連刊行物や神戸川の写真を収めたCDもあり、幅広い活用による神戸川への理解と愛着が期待されています。



●いちばたでんしゃがゆく

## 一畠電車がゆく

著者名 根宜康広 写真

発行者 今井書店 出版年 平成11年(1999)

産

畠電(ばたでん)とよばれた一畠電鉄の歴史と、それに関わった人たちの思いを綴った一冊です。

本書では、平成10年に惜しまれながら引退したデハ1型など、懐かしい車両のカラー写真も満載しながら、一畠電鉄の歴史を繙いています。<sup>ひもと</sup>電車とかかわった5人の人たちのそれぞれの立場での思い出を掲載していますので、鉄道ファンにも嬉しい刊行物といえます。

また、平成22年に発刊された増補改訂版では、映画「RAILWAYS」の好評上映に伴い、新たに、映画監督錦織良成と俳優佐野史郎の対談やCDを付けています。



(写真は平成22年版)

●いちばたえんせんものがたり

# 一畠沿線ものがたり

発行者 原美代子

出版年 平成20年(2008)

文

沿線で暮らす人たちと語り、昔の物語を書きながら、歴史や文化に触れてみたいとの著者の思いから執筆された刊行物です。

本書は、一畠電鉄沿線の26駅それぞれの周辺の見所を、多くの写真やイラストを盛り込みながら紹介しています。いわゆる観光スポットではなく、初めて出会うような隠れた歴史・文化を掘り出した著作として、観光ガイドブックにはない面白さがあります。

また巻末には、『催花雨』、『神々のウォーキング』の短編小説2篇も掲載され、異色の組み合わせの一冊といえます。

●ひかわぐんめいじょうし

# 簸川郡名勝誌

発行者 島根県簸川郡私立教育会

出版年 明治41年(1908)

歴

本書は、明治末期における簸川郡の名勝や古跡を列挙した書物です。

巻頭には、出雲大社をはじめ、杵築中学校や簸川郡役所など16カ所の当時の貴重な写真を掲載しているほか、付録として、工場会社一覧表や人力車賃錢表、人口、戸数、地価などがあり、資料的に見ても、単なる地域誌以上の高い価値のある一冊です。

また巻末には、60を上回る多くの商店などの広告を載せるなど、出版物としても画期的な編集がなされており、出版史に残る名著といえます。

●ひかわぐんのさんぎょう

# 簸川郡の産業

発行者 簿川郡役所

出版年 大正11年(1922)

産

本書は、簸川郡物産共進会の開催と郡制廃止を記念して発刊された簸川郡の産業誌です。

内容構成は、簸川郡の農業、蚕糸業、畜産、林業、水産業、工業、鉱業、金融及び商取引の趨勢について、統計資料も折り込みながら述べたのち、郡内の郡・町村の施設、各種勧業団体施設、各種産業団体施設の現状を記しています。また、産業功労者や特産品と名物についても触れており、大正末期における簸川郡の産業動向を知るうえで、貴重な資料といえます。

●ひかわぐんいじんとくこうしゃでん

# 簸川郡偉人篤行者伝

発行者 簿川郡私立教育会

出版年 大正8年(1919)

人

歴

大正天皇御即位大典記念として、郡内偉人篤行者を調査し編さんした刊行物です。

郡内各小学校長を委員として調査を行い、一定の基準を満たす者を対象に、本書の前編には故人を、後編には現存者を掲載しています。なお前編では、勤王家・公益事業家・功労者・学者・篤志家など、後編では軍人・教育功労者・神職・精農家などに区分して多くの人物を紹介しています。

● ぜつついすもうなんのれきし

## 図説出雲・雲南の歴史

発行者 郷土出版社  
出版年 平成24年（2012）

歴

神話と伝説に彩られた神々のふるさと、出雲・雲南の歴史を解き明かす一冊です。

本書は、斐伊川・神戸川に育まれた出雲市・雲南市・飯南町・奥出雲町の原始から現代までの歴史を、100の項目でわかりやすく紹介しています。土地に刻まれた地域固有の歴史を、最新の学術成果も取り入れつつ、また多くの図版も交えながら、1項目を見開き2ページに簡潔かつ明解に収めた、読み易い構成になっています。

子どもたちに伝えたい、未来に語り継ぐべき遺産を再認識するためにも、手許において一度は読んでおきたい地域誌です。

● しちうらめぐりのたび

## 七浦巡りの旅 鹿島町～島根町

発行者 島根半島四十二浦巡り再発見研究会  
出版年 平成23年（2011）

歴

関和彦氏を研究座長に、大谷めぐみ氏を副座長とする島根半島四十二浦巡り研究会が、四十二浦巡りの研究と普及活動の一環として発刊した小冊子です。

島根半島に古くから伝えられてきた四十二浦巡りと呼ばれる、海岸で汐汲みし神社を巡り歩く信仰習俗に現代的価値を再発見し、県内外に紹介するため、四十二浦巡りの地域版である七浦巡りの地域ガイド講座と浦巡りバスツアーのガイドブックとして本書は作成されました。

入り組んだ海岸線の浦ごとに、神社の名称、祭神、所在地を記するほか、浦ごとの固有の歴史や伝承を辿ることによって、風光明媚な島根半島の、これまであまり語られることのなかった、もうひとつの魅力にふれることができます。

なお、島根半島の七浦巡りは、地域を変えて、これまで6回開催され、本書のほかに平田、美保関、大社・平田、美保関・島根、平田（改訂版）、平田・鹿島が発刊されています。島根半島の出雲の神々の原風景を体感することのできる、重宝する手引書ですが、これらがやがて一冊に纏められることが望されます。

● いちばたひゃくねんものがたり

## いちばた百年物語

著者名 社史編纂委員会 編

発行者 一畑グループ100周年事業実行委員会

出版年 平成24年（2012）

産

一畑電気鉄道株式会社が創立100周年を迎えるにあたり、一畑軽便鉄道創業時からの一畑グループ100年の歩みを記録した一冊です。

本書は、地域とともに歩んだ一畑グループの主な出来事を、コンパクトに34話にまとめて時系列で紹介し、その歴史が大筋でわかるように編集しています。社史とはいながら、写真やイラストを多用し、DVDも添付されていますので、激動の100年を駆け抜けた一畑グループの動静を、気軽に楽しんで読むことができます。

# 出雲の自然

出雲市は、北と西は日本海、東は宍道湖に面し、南に中国山地、中央部に出雲平野が東西に横たわる風光明媚な地域です。

とりわけ、島根半島と中国山地に挟まれた出雲平野は、山陰随一の沃野として知られ、斐伊川、神戸川の豊かな水に育まれた自然環境は、神話と古代文化に彩られた出雲ならではの輝かしい文化遺産を培う源といえます。平野の西には長く弓なりに伸びる出雲砂丘が発達し、砂丘の内側には神門水海(現在の遺跡湖である汽水湖、神西湖)を抱く景観は、まさに、いにしえの『出雲国風土記』の国引き神話の世界を彷彿させるものがあります。

また、神戸川中流の「山陰の耶馬溪」ともいわれる立久恵峠の特異な奇岩怪石と生態系は、国の名勝及び天然記念物として、四季折々の趣きある風情を楽しませてくれます。さらに、島根半島の日本海側の急峻な海岸地形は、入り組んだ湾が連続し、白い荒波が碎ける、いわゆるリアス式海岸で、稻佐の浜から園の長浜につづく砂浜と対照的な二つの顔をみせています。

自然豊かな出雲市については、これまでにも『斐伊川誌』や『神戸川史』、『神西湖の自然』など、数多くの書物が出版されています。

## <自然(全般)>

### 決定版出雲・雲南 ふるさと大百科

発行者 郷土出版社  
出版年 平成20年(2008)

### みんなの自然 ガイドブック 出雲地域編[1]

発行者 島根県景観自然課  
出版年 平成8年(1996)

## <自然(個別)>

### 斐伊川誌

発行者 建設省中国地方建設局  
出雲工事事務所  
出版年 平成7年(1995)

### 神戸川史

発行者 神戸川史作成協議会  
出版年 平成22年(2010)

### 島根県の地質

発行者 島根県  
出版年 昭和60年(1985)

### 神西湖の自然

発行者 たらら書房  
出版年 平成7年(1995)